

人権ほつと三年八月号

「ジェンダー・ギャップ指数」

大阪教育大学教授

安達 智子

今回は男女平等について数字を使って考えてみましょう。

皆さんは「ジェンダー・ギャップ指数」を知っていますか？ スイスに本部がある世界経済フォーラムという団体が公表している男女格差をあらわす指標です。

最新の発表をみると、日本のスコアは0・656でした。ゼロに近いほど不平等で一が完全な平等ですので、私たちの社会には男女格差があることが数値に表れています。ランキングをみても156カ国中120位と残念な結果です。今年だけふるわなかったかというところではなく、過去五年間をたどると、2016年から111位、114位、110位、そして二年続けて121位と横ばい状態が続いています。

では、日本は男女格差を埋めるために何もしていないのでしょうか。いえ、そうでは

ありません。昔よりも大学に進学する女子が増え、結婚してから仕事も続ける女性、そして女性のリーダーも増えてきました。何故、順位があがらないかというと、それだけ他の国が頑張っているからです。ジェンダー平等は国際社会が達成するべき共通目標とされており、他の国は日本よりもっと積極的に格差解消に取り組んでいるのです。

指数は四つの分野について計算されており、日本は「教育」と「健康」についてはそれぞれ0・983と0・973で良好です。一方、「経済」は0・604と低く、これは男性と女性の賃金に開きがあることや女性の管理職が少なることなどが原因となっています。そして、「政治」においては0・061と、とても低いスコアで、女性の政治分野への参加がおくれていることが分かります。

このように、私たちの社会において、教育と健康について平等は達成されつつあり、この先は経済と政治における女性の活躍が期待されます。